

「自立支援事業の周知・連携」

開業医を含めた医師への 自立支援事業アンケート調査

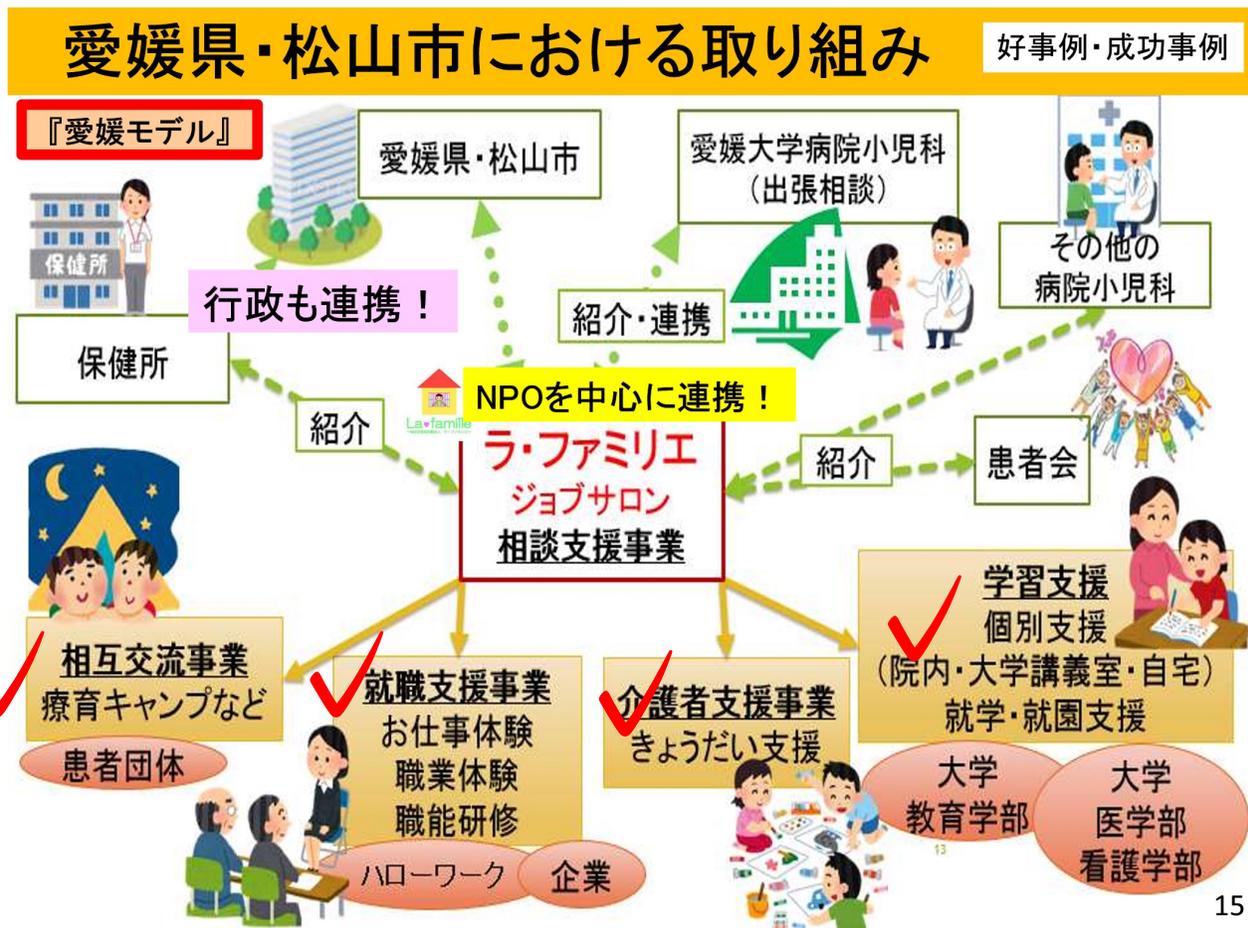
愛媛大学 小児科

高田 秀実

背景

- 小児慢性特定疾病児童等の自立支援事業（以下、自立支援事業）において医師の関わりは重要である。
- 医師の自立支援に関する理解度、周知度には差があると考えられるが、詳細は不明である。
- 過去に小児科学会代議員,ACHD学会施設責任者に対するアンケートは実施されたことがあるが、対象に偏りがある。

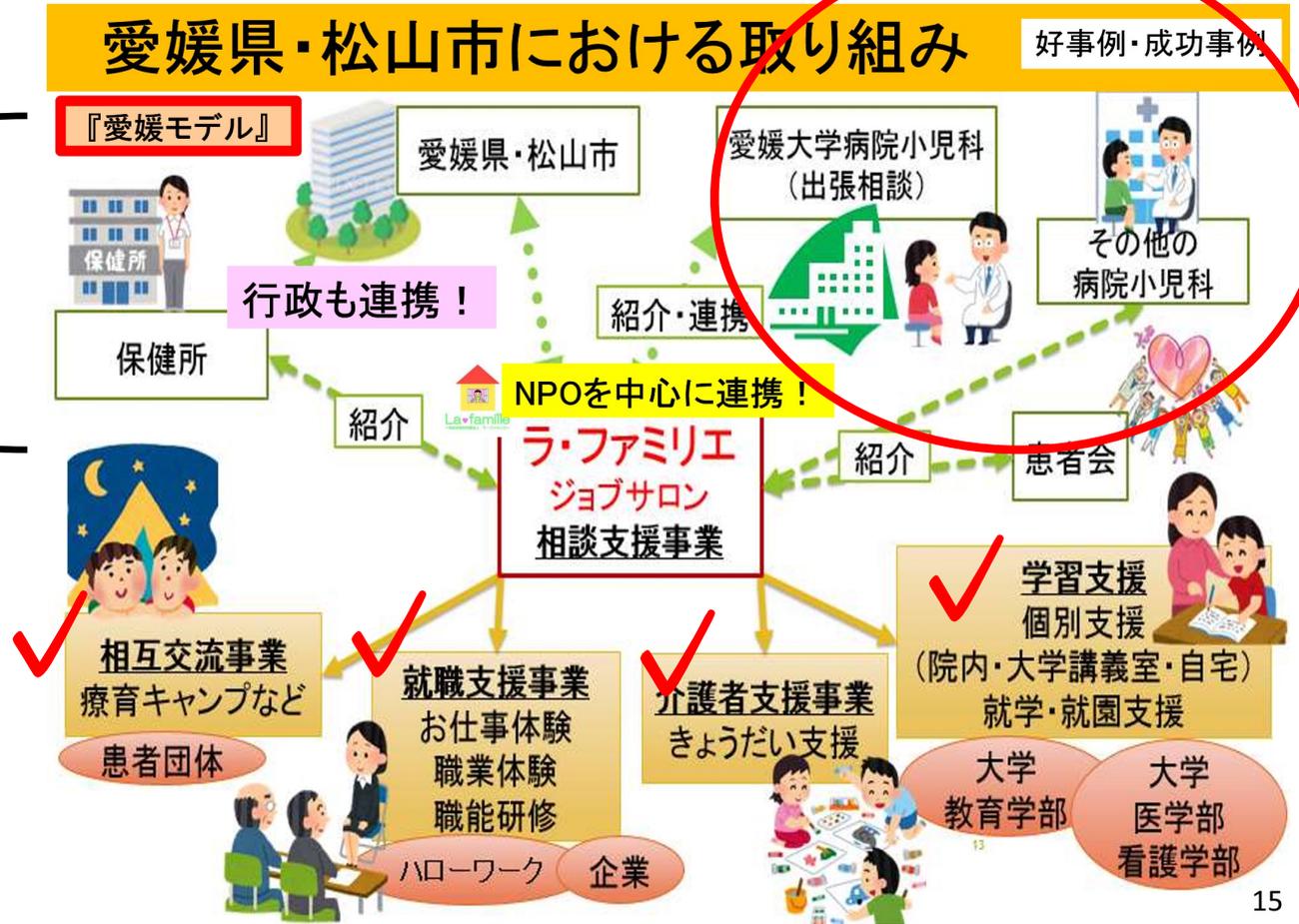
自立支援事業の環



✓ 個別ケースの深掘りはかなりすすんでいる

自立支援事業の環に入るきっかけとして医師役割は大きい

エントリー



?

医師のなかで自立支援への理解に 差があるのではないか？

✓ 診療科の違い

- 対象疾患の種類
- 対象患者の年齢

✓ 経験（年数）の違い

方法

アンケート調査

2021年度：インターネット調査

対象 全国の医師

2022年度：開業医、勤務医向けアンケート

対象 愛媛県内、循環器診療に関わる医師（開業医、勤務医）

2021年度アンケート調査

- インターネット調査 (株) インテージ調査を依頼
- 24～69歳までの医師 (勤務医、開業医)
- 対象地域：全国
- 調査期間 2022/3/2- 3/7

アンケート調査項目1

回答医師の属性

- 性別
- 年齢
- 勤務形態（開業医、勤務医、研究医など）
- 所属施設都道府県
- 所属施設の種類
- 所属施設 総病床数
- 所属施設 小児科病床数
- 専門分野
- 専門のサブスペシャリティ小児科専門医資格の有無
- 難病指定医の有無
- 小児慢性特定疾病指定医の有無

アンケート調査項目2

小児患者、小慢の成人患者を診ることがあるか？

- 小児患者を診ることがあるか
- 小児慢性疾患患者を診ることがあるか
- 小児慢性疾患患者で専門施設への受診を要する患者を診ることがあるか
- 小児慢性疾患患者を有する成人期患者を診ることがあるか。
- 小児慢性疾患患者で専門施設への受診を要する成人期患者を診ることがあるか

アンケート調査項目3

移行期医療について

- 移行期医療とはなにか知っているか
- 移行期医療への関心
- 移行期医療の必要性
- 「小児期発症疾患を有する患者の移行期医療に関する提言(2014)」を知っているか
- 所属施設に移行期医療支援部門があるか
- 移行期医療支援センターについて知っているか

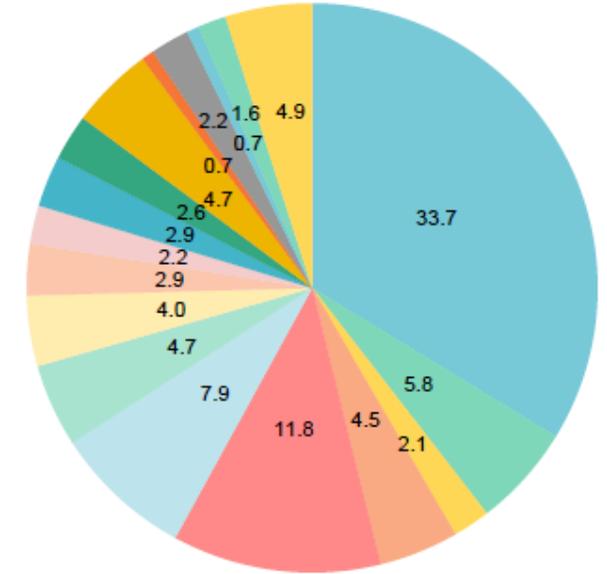
アンケート調査項目4

自立支援事業について

- 自立支援事業について知っているか
- 自立支援事業に患者を紹介したことがあるか
- 自立支援事業についての必要性
- 自立支援員を知っているか
- 自立支援員と関わったことがあるか
- 所属施設に自立支援担当部門があるか

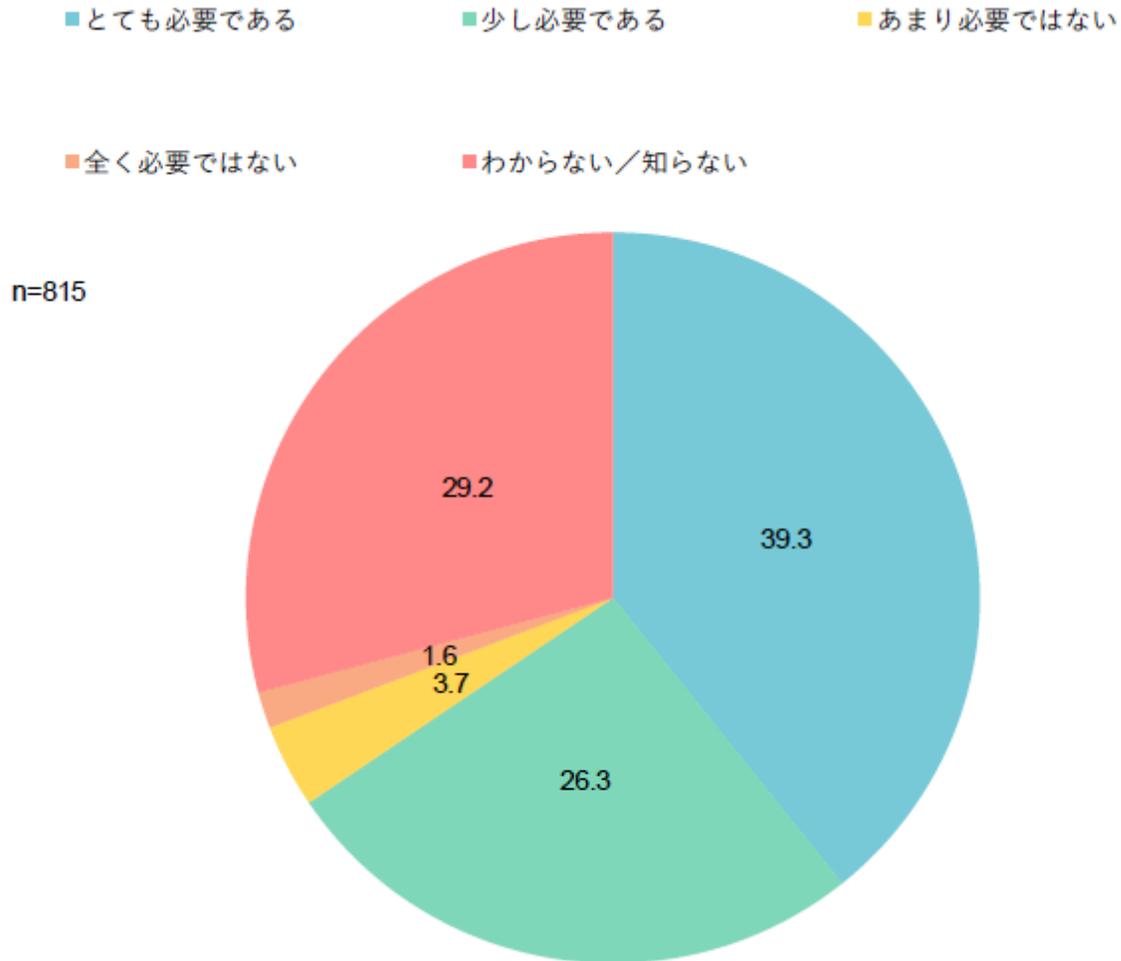
結果

- 回答数 815人
(質問によって変化あり)
- 男女比 男性：女性=82:18 (%)
- 年齢 平均53.9 歳



内科	33.7%
外科	11.6%
整形外科	7.9%
小児科	5.8%
産婦人科	4.7%

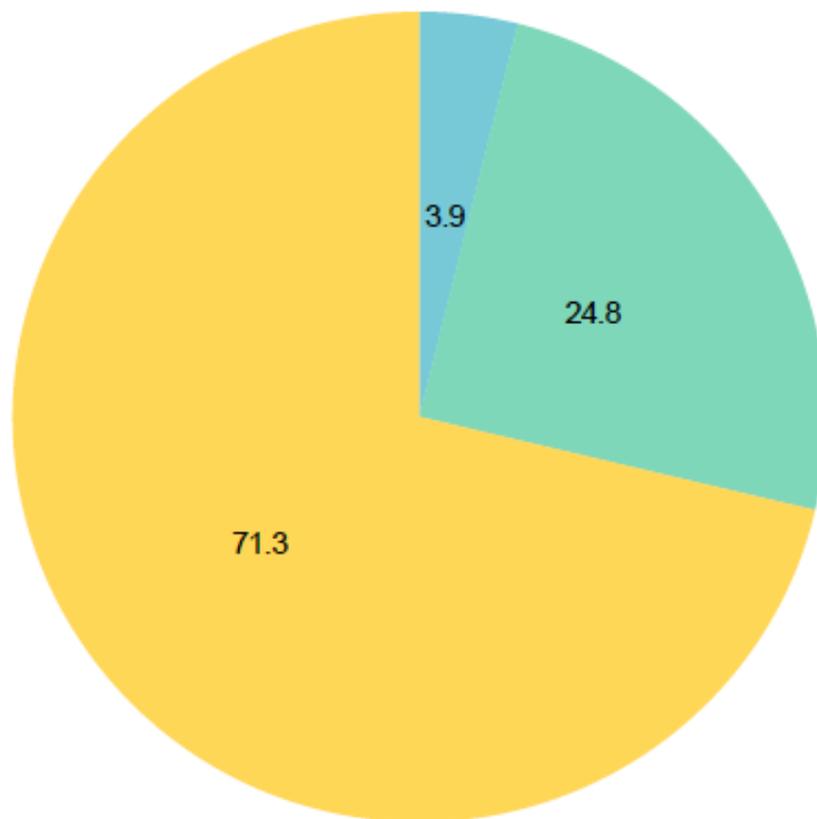
自立支援の必要性について



自立支援事業について知っているか

■ よく知っている ■ 聞いたことがある ■ 知らない

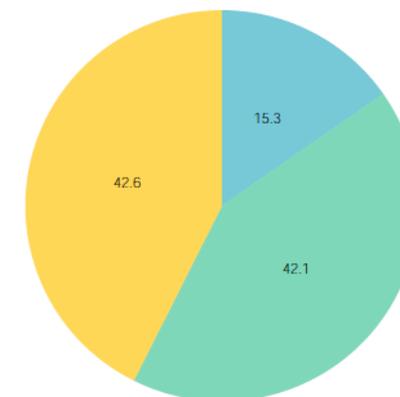
n=815



移行期医療

■ よく知っている ■ 聞いたことがある ■ 知らない

n=815



移行期医療より認知度は低い

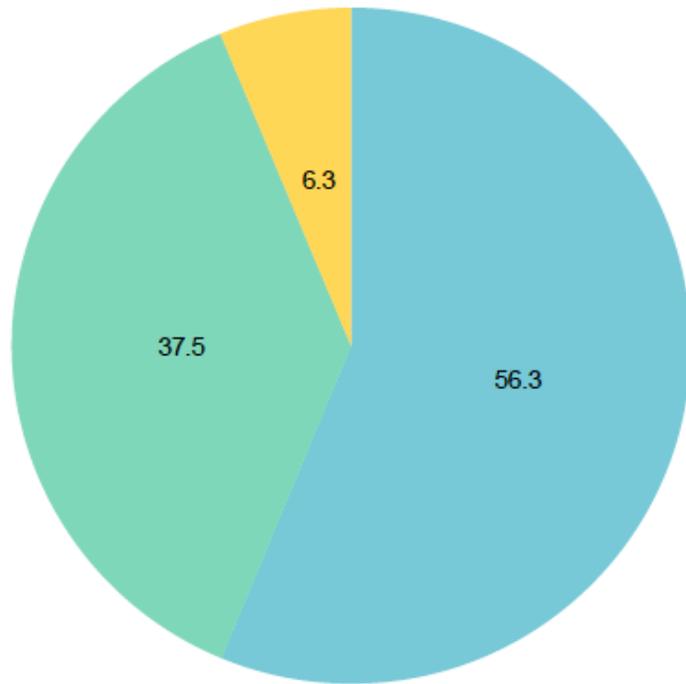
自立支援員を知っているか

自立支援員と関わったことがあるか

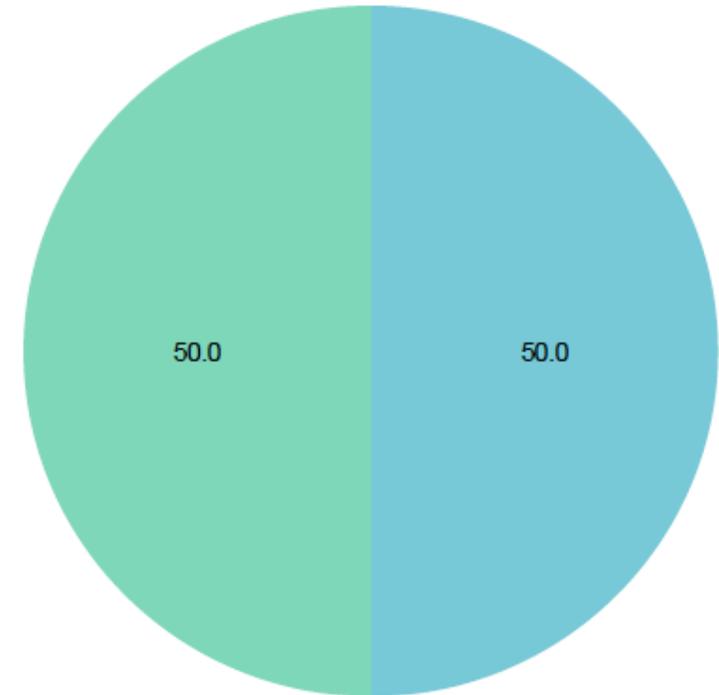
■よく知っている ■聞いたことがある ■知らない

■ある ■ない

n=32



n=30



回答数が少ない。未回答の人も自立支援員への関わりは少ないと推測される

2022年度アンケート調査

- 記述式（愛媛県による調査）
- 循環器に関わる医師（勤務医、開業医）
- 対象地域：愛媛県
- 調査期間 2022/10-11月
- 循環器対策基本法に関する調査の一環として施行

アンケート調査項目1

回答医師の属性

- 性別
- 年齢
- 医師経験年数
- 所属施設の種類
- 所属施設 総病床数
- 診療科
- 専門分野
- 難病指定医の有無
- 小児慢性特定疾病指定医の有無

アンケート調査項目2

循環器対策基本法について

- 循環器病対策基本法に基づいた国の計画である「循環器病対策推進基本計画」について知っているか
- 「循環器病対策推進基本計画」のなかで「小児科・若年期からの配慮が必要な循環器病への対策」という項目があるのを知っているか

アンケート調査項目3

ACHD患者について

- 成人先天性心疾患（ACHD）についてどの程度知っているか
- 小児先天性心疾患患者（20歳未満）を診療することがあるか
- 成人先天性心疾患患者（20歳以上）を診療することがあるか
- 以下に挙げる患者を診療可能か
軽症～重症まで具体的な疾患を記載して回答
- 移行期・成人性心疾患センター（愛媛大学に設置）を知っているか
- 移行期・成人性心疾患センターに紹介したい患者がいるか

アンケート調査項目4

移行期医療、自立支援事業について

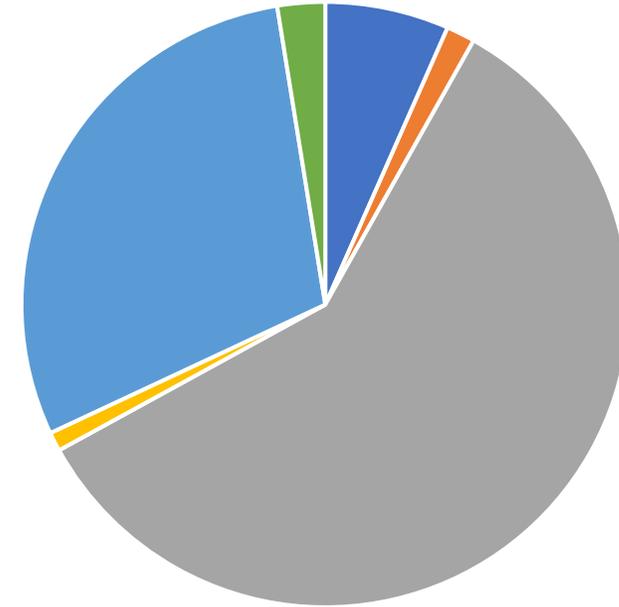
- 移行期医療の診療状況
- 移行期医療についての考え
- 移行期医療の必要性

- 「小児慢性特定疾病児童等自立支援事業」を知っているか
- 「小児慢性特定疾病児童等自立支援事業」の必要性
- 自立支援員について知っているか

結果

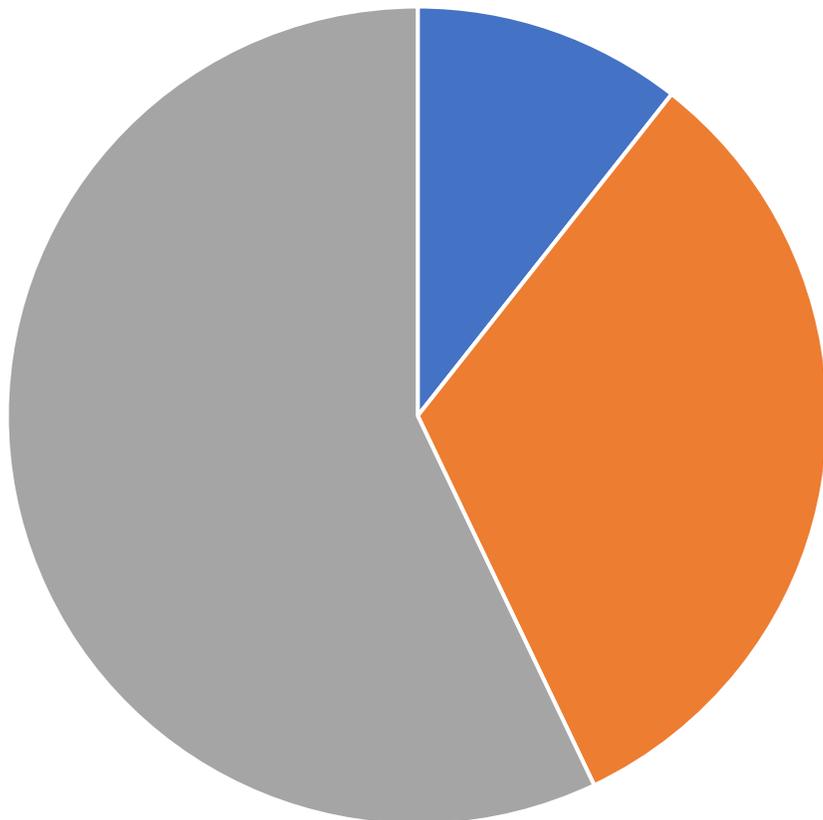
- 回答数 200人
(質問によって変化あり)
- 男女比 男性：女性=84:16 (%)
- 年齢 ~40歳 33%
50歳~ 67%

専門分野



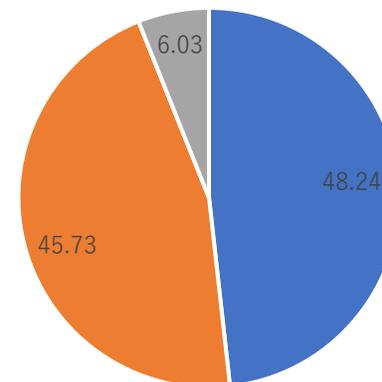
内科	59%
小児科	29%
外科	6.6%

自立支援事業について知っているか



■ 1: よく知っている ■ 2: 聞いたことがある ■ 3: 知らない

移行期医療について知っているか

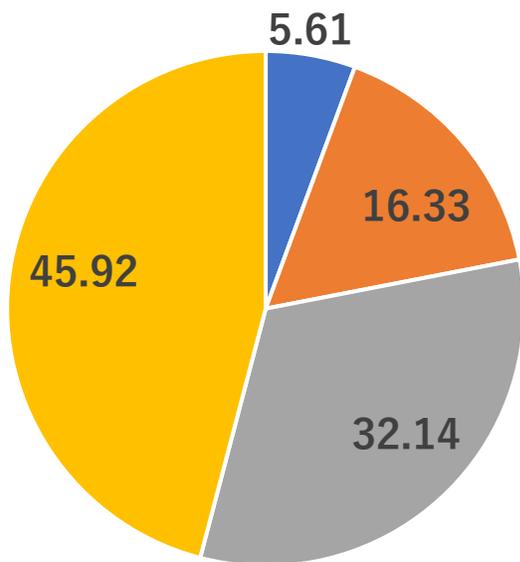


■ 1: よく知っている ■ 2: あまり知らない ■ 3: 知らない

移行期医療より認知度は低い

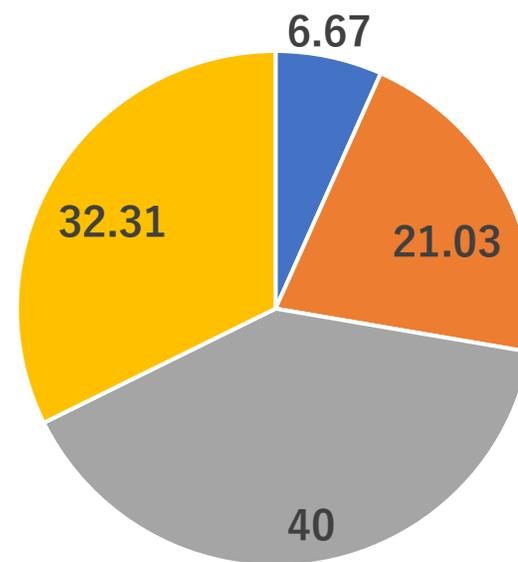
先天性心疾患を持つ患者を診察する機会

先天性心疾患患者（小児）を
みる機会



- 1 : 日常的に診ている
- 2 : 時々ある
- 3 : めったに診ない
- 4 : 診たことがない

先天性心疾患患者（成人）を
みる機会

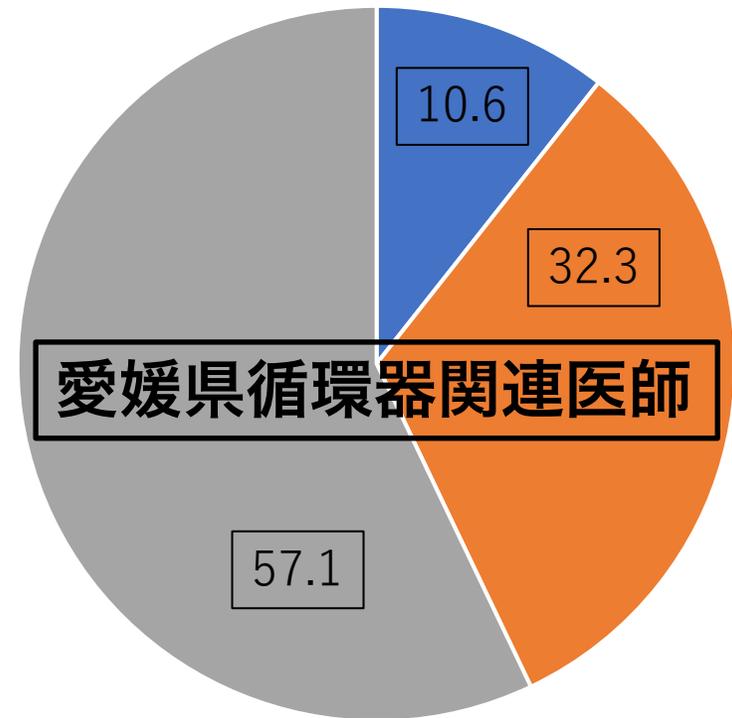


- 1 : 日常的に診ている
- 2 : 時々ある
- 3 : めったに診ない
- 4 : 診たことがない

考察

自立支援事業の認知度は低い

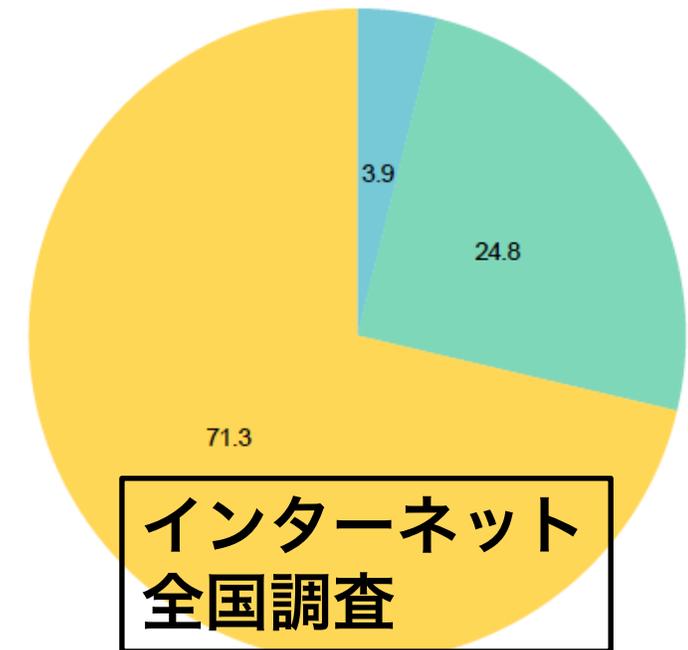
自立支援事業について知っているか



■ 1 : よく知っている ■ 2 : 聞いたことがある ■ 3 : 知らない

■ よく知っている ■ 聞いたことがある ■ 知らない

n=815



今回の調査の限界

- 対象医師がまちまち
- 実際に自立支援事業を必要としている患者を診ている医師が対象かどうかは不明。
- 自立支援事業に関わる医師個人の意識を詳細には聞けておらず、参入における問題点は明らかにはなっていない。

ある日の診療（自立支援を知らない場合）

心臓の調子はどうですか？



変わりないです
元気に動き回っ
てます

ではまた半年後に！

自立支援を知っているDrの場合

心臓の調子はどうですか？

勉強はどうですか？
友達付き合いは？



変わりないです
元気に動き回っ
てます

ちょっと授業に
ついていけてな
いかも・・・

自立支援員に相談してみましようか？

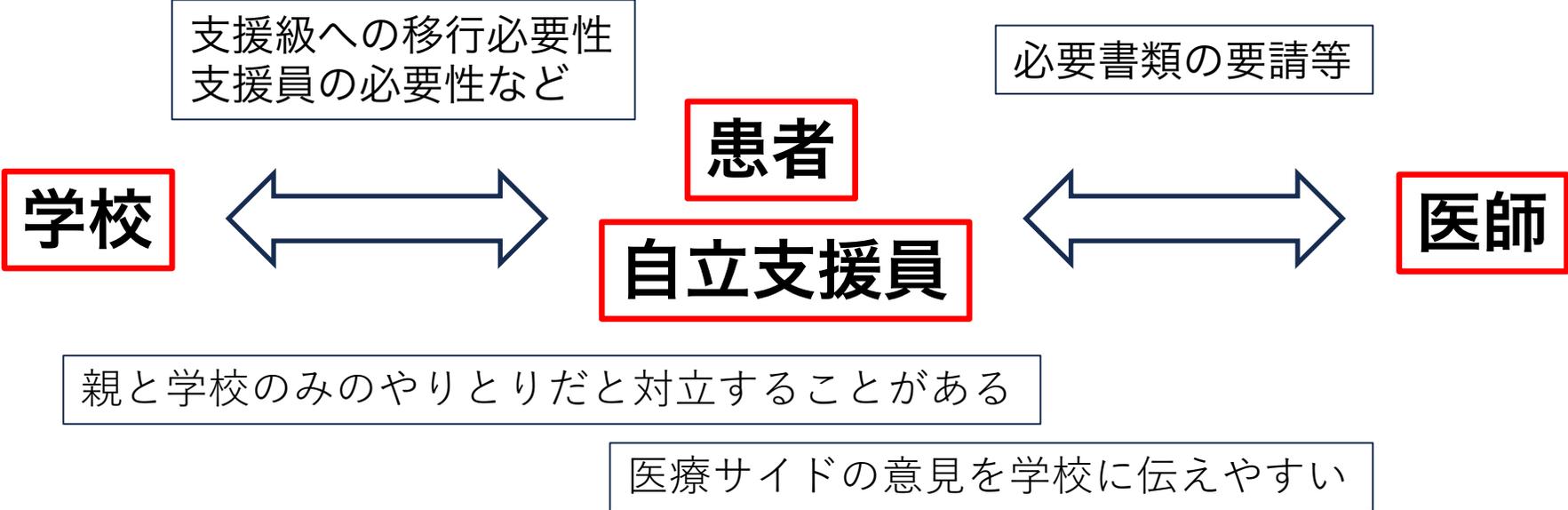
実例 7歳（小1） 女児

- ✓ ファロー四徴、肺動脈閉鎖ラステリ術後（ラステリ術）
- ✓ 染色体異常、遺伝子検査異常なし
- ✓ 体格は小柄
- ✓ 発達はおおきな異常なし

勉強はどうですか？
友達付き合いは？

元気なのですが、すこし勉強が
ついていきにくい印象です。

全検査IQ	;	97	(92~102)
言語理解指標 (言語概念形成、言語推理などの言語能力)	;	74	(70~84)
知覚推理指標 (流動性推理、空間処理、視覚-運動の統合)	;	104	(96~111)
ワーキングメモリー指標 (ワーキングメモリーの能力)	;	123	(114~128)
処理速度指標 (視覚情報を素早く正確に取り込む、 順に処理する・識別する能力)	;	96	(89~104)

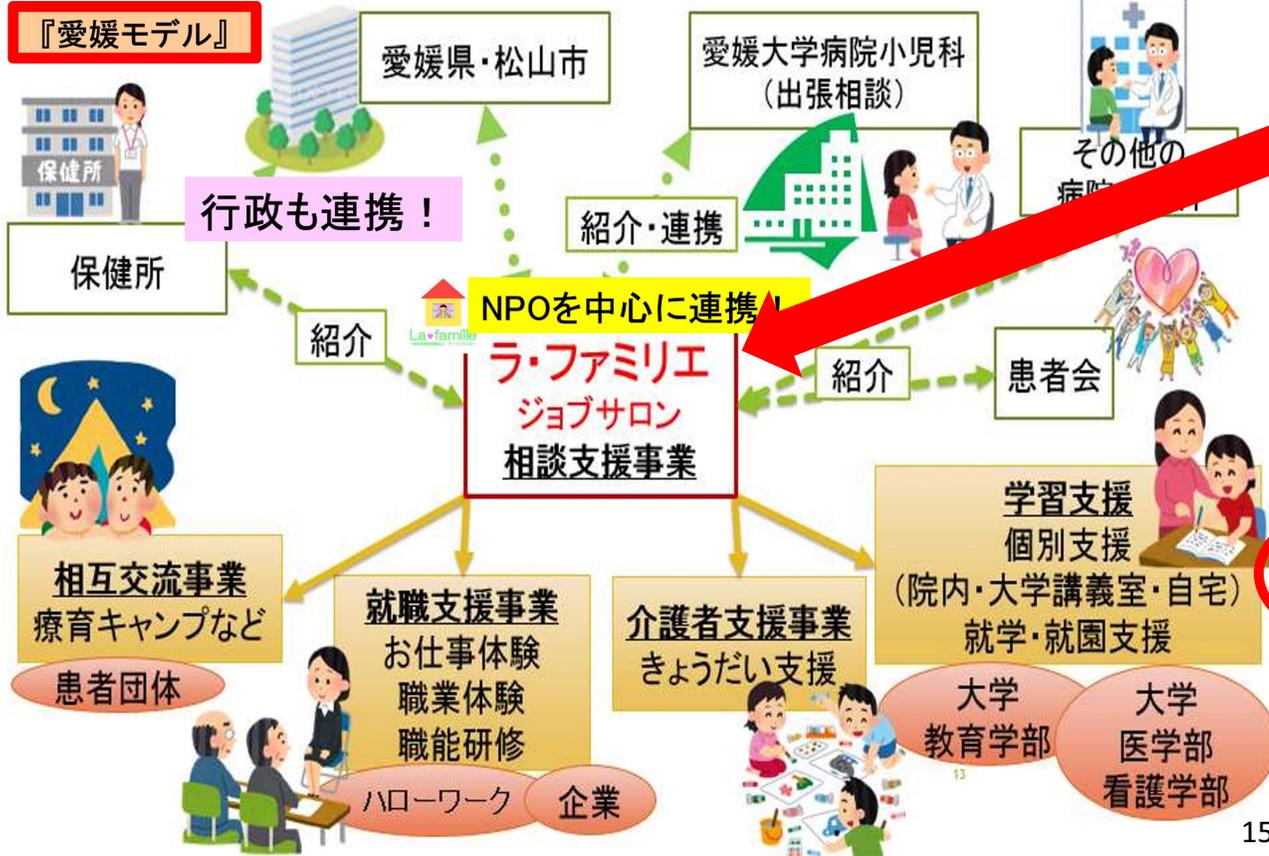


学校など

愛媛県・松山市における取り組み

好事例・成功事例

患者



患者が自立支援事業を受ける入り口として医師は大きな役割を持つ

- ✓ 自立支援事業を知る
- ✓ 窓口がどこにあるか周知する

まずはこれだけでも

まとめ

- アンケート調査を用いて、自立支援事業に対する医師の意識調査をおこなった。
- 自立支援事業への認知度は低く、周知が今後の課題と思われる。
- 自立支援事業を日々の診療に少しでも取り入れる事が患者の利益につながる。